

氏名	宮脇 義亜
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 5 6 7 6 号
学位授与の日付	平成30年3月23日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目	A retrospective observational study of glucocorticoid-induced diabetes mellitus with IgA nephropathy treated with tonsillectomy plus methylprednisolone pulse therapy (IgA腎症に対する扁桃摘出後ステロイドパルス療法時におけるステロイド糖尿病発症を検討したレトロスペクティブコホート研究)
--------	---

論文審査委員	教授 大塚文男	教授 西崎和則	教授 樋之津史郎
--------	---------	---------	----------

学位論文内容の要旨

背景：IgA 腎症に対する扁桃摘出術後ステロイドパルス療法（TSP）は数多く行われているが、TSP 後のステロイド糖尿病（GC-DM）発症割合とその危険因子は明らかにされていないため、TSP 後の GC-DM 発症割合とその危険因子を検討した。

方法：2006 年 4 月から 2013 年 12 月までに岡山大学病院腎臓内科に入院し、初めて TSP プロトコルを施行・完遂した IgA 腎症 95 例を最大の解析対象とした。入院中の GC-DM 発症割合を主要評価項目として、レトロスペクティブコホート研究を行った。

結果：男性 36 例、年齢中央値 33 歳、BMI 中央値 21.2kg/m²。入院中に 19 例（20.0%）が GC-DM を発症し、年齢（45 歳以上）、糖尿病の家族歴ありが GC-DM 発症の独立した危険因子であった。

結論：TSP を受けた IgA 腎症症例の 20%が GC-DM を発症し、年齢（45 歳以上）と糖尿病の家族歴が発症に関与していた。

論文審査結果の要旨

本研究は、IgA 腎症に対する扁桃摘出術後のステロイドパルス療法と、その後のステロイド糖尿病の発生とその危険因子についての研究である。

著者らは、2006 年 4 月から 2013 年 12 月までの岡山大学病院腎臓内科における扁桃摘出後ステロイドパルス施行 IgA 腎症患者 95 例（男性 36 例、年齢中央値 33 歳、BMI 中央値 21.2 kg/m²）において、入院中のステロイド糖尿病発症の発症割合を主要評価項目として、レトロスペクティブコホート研究を行った。結果として、入院中 19 例（20%）においてステロイド糖尿病が発生し、年齢 45 歳以上と糖尿病の家族歴が本症の発生の独立した危険因子であった。

今回の研究では、ステロイドパルスを受けた IgA 腎症症例では、年齢と家族歴が糖尿病発生に大きく関与することが明らかとなり、IgA 腎症治療における合併症の臨床的予測を立てるうえで重要な結果となった。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。